

議事録名：2024年度 第2回 運営推進介護			
日時	2024年 7月16日(火) 13:30~14:30	議事進行	7月16日
場所	小規模多機能型居宅介護 令和の郷 2階 リビング	池野	書記：池野
出席者	<input type="checkbox"/> 池野（令和の郷 管理者兼計画作成担当者） <input type="checkbox"/> 中野（開成町役場 福祉介護課） <input type="checkbox"/> 小野（開成町地域包括支援センター） <input type="checkbox"/> 三橋（上島自治会 自治会長） <input type="checkbox"/> 諸星（上島地区 児童民生委員） <input type="checkbox"/> 木村（上島地区 児童民生委員） <input type="checkbox"/> 熊澤（円中村地区 児童民生委員） <input type="checkbox"/> 長田（小規模多機能型居宅介護 すいふよう 計画作成担当者） 以上8名（敬称は省略させて頂きました。）		
資料	2024年度 第2回運営推進会議次第、2024年5月・6月度 運営状況報告書、 事業所の自己評価資料、返信用封筒 以上当日配布		
議題及び議事内容			
<p>次第に従い議事進行致しました。</p> <p>1. 開会あいさつ（池野）</p> <p>本日は、雨で足元が悪い中、お集まり頂きありがとうございます。今回もご利用者様及びご家族様へ開催案内をお送りしましたが、出席できる方がおりませんでした。また、欠席の返信があった方からの質問、ご意見などはありませんでした。</p> <p>2. 運営状況報告</p> <p>管理者の池野より、当日配布の「小規模多機能型居宅介護 令和の郷 2024年5月・6月度 運営状況報告書」の読み合わせによる運営状況の報告を行いました。</p> <p>利用者状況について、目標としている25名には到達しませんが、5月は24名、6月は23名で平均介護度も2.0を超えてくるようになりました。本日現在の登録者数は、21名で平均介護度は、2.0を少し超える程となっています。登録者数の減少により、サービス提供実績も減っています。</p> <p>5月は、2名の新規登録、1名の終結（住宅型老人ホーム入所）。6月は、1名の新規登録、3名の終結（入所者2名、その他1名）でした。6月の終結者のその他1名は、足柄上センター生活保護課より相談があった案件で、介護者様が緊急入院となり、その間の1週間ほどの利用で終結となりました。</p> <p>前回の運営推進会議で居室の空きが無く困っている事についてお伝えしましたが、在宅復帰できた方、入所した方等あり、現在は、居室も空き、退院支援など泊り利用が必要な方の受け入れが可能な状態となっています。</p> <p>職員状況については、7月1日現在、現場の職員体制に大きな変更はありませんが、7月1</p>			

日より、看護師の配置が、同一法人内の小規模多機能型居宅介護の3事業所で1名の看護師を雇用し配置しています。令和の郷へは、以前と変わらず、週1日の半日（2時間程度）の配置となっています。

研修状況について、5月は「倫理及び法令遵守」、6月は「ハラスメント」の研修を実施しました。両研修ともインターネットで探した資料と事業所に設置されているマニュアル等を活用して行いました。

ハラスメントの研修については、かなりの広範囲となり、全てを行うには、かなりの時間が必要となる為、今回は、「カスタマーハラスメント」についてとハラスメントを受けた際の対応方法等についての学習を行いました。ハラスメントについては、認識の個人差もあるため、相談できる環境を整える事や離職や精神疾患の原因とならないようにすること等を学習しました。

活動状況や利用者の状況については、5月、6月は、気候も安定して晴天の日も比較的多く、屋外での活動を行う事ができました。5月には、端午の節句のイベントとして三平保育園の園児さんが来所したり、小田原のフラワーガーデンにバラを見に行ったりする事ができました。6月からは、大正琴やマジック、日本舞踊のボランティアさん達が来所されたり、開成町あじさい祭りの会場にあじさいを見に行ったりできました。少しずつではありますが、地域との交流、ボランティアさん達の受け入れなども行えるようになってきました。また、6月には、避難訓練も行い、万が一に備えての訓練も行いました。吉田島高校の担当教員の方とも今年度の活動についての話し合いを行いました。どうしても年度の初めは、カリキュラムも詰まっており、交流活動は夏休み明けからになる予定です。

6月末に新型コロナの感染者がでました。ご利用者様2名、職員1名が感染しました。6月25日（火）に「通い利用」の方のご家族より26日（水）の夕方に新型コロナに感染したとの連絡がありました。この方と同居しているお孫様が新型コロナに感染していたが、お孫様とは接触が無く、当日も発熱などの症状が無かったので利用したとの事。この方と同じ車で送迎し同じテーブルで過ごしたご利用者様1名が2日後に発症しました。また、その後、入浴介助した職員1名が感染しました。

5月よりご利用者様ご家族に日頃の様子を知って頂くために、毎月「令和の郷通信」を発行する事になりました。（実際の「令和の郷通信7月号」を見て頂きました。）

6月からは、一部活動の様子をInstagramにてアップしていますので、是非、そちらも確認して下さい。また、高台病院でもInstagramをアップしますのでご覧下さい。

ヒヤリハット・事故・苦情報告は、5月に1件、6月に1件の転倒事故がありました。

1件目は、エレベーター内の転倒事故で、夕食後、2階フロアに移動する際に、エレベーターに後ろ向きで乗車しようとして後方に転倒。尻餅をついてしまった。全身観察、

痛みの確認を行う。全身状態に異状なく、ご本人からの痛みの訴えも無い為、経過観察とした。通常は、前向き乗車してエレベーター内で転回していたが、その時に限って後ろ向き乗車だった。事故の原因としては、ご本人が「大丈夫」だと思い込んでしまった事。また、職員にもいつものように乗車するという油断があった。

今後の対応として、ご本人がエレベーターに乗り込むときは、必ず付き添い、前向きに乗車してエレベーター内で転回する事を声掛けすると共に見守り、確認を行う事で対応する事になりました。

2件目は、事業所玄関外での転倒事故で、事業所からご自宅への送迎の為、事業所前で送迎車に乗り込む際に両手引きで誘導中に事業所前の階段で右足先が階段から降ろせず、膝折れし、右膝が地面についてしまい擦り傷ができてしまった。事故原因としては、「送迎車まで歩けるだろう」「膝折れしても支えきれだろう」という認識で介助してしまった。

今後の対応策として、誘導時は、両手引きではなく、脇を支えて誘導を行う事。複数人で誘導する事。スロープ、歩行器を使用して送迎車まで誘導する事などで対応する事としました。

3. 意見交換

- 新型コロナが発生したとの事、対応については？（民生委員）

運営状況報告書に記載した通りですが、その後の発生はありません。また、最近、感染者が増加傾向にあるとの情報もある為、しばらくの間は、ご利用者様もマスクして過ごして頂きました。

職員の家族が感染した場合でも、本人が発症しなければ、行動制限が無い為、自覚症状や発熱が確認されなければ、N-95マスクを使用して勤務してもらっています。入浴介助や調理担当からは外れてもらって対応しています。（池野）

系列のグループホームでもワンフロア9名の利用者全員が感染しました。保健所と相談しましたが、認知症の方の行動制限は難しい為、同一フロア全員が感染するのは仕方がない、ほかのフロアに広がる事が無いように手洗いやマスクの着用などを徹底して下さい。との指導がありました。重症化する方はいませんでした。（長田）

- 保育園との関りができ、ご利用者様の様子はどうですか？（民生委員）

ご利用者様の笑顔が増えました。ご利用者様にとっては、ひ孫位の年齢の子供たちなのでとってもかわいいと喜んでいきます。また、園児の子供たちもとても楽しそうに遊んで帰ります。（池野）

- 吉田島高校との打ち合わせはどうでしたか？（民生委員）

5月に担当の先生と今年度の打ち合わせを行いました。年度の前半は、カリキュラムが詰まっているため、実際の交流は夏休み明けからとなる予定。昨年同様、金曜日午後の授業枠を使って交流を行う予定です。また、別曜日の午前の授業枠もある為、

三平保育園との交流も検討しています。インターシップや職業体験などの受け入れも行う事の提案を行いました。10月頃に地域包括支援センターとの共催で「認知症サポーター研修」を行う予定でいます。

4. その他

・事業所の自己評価について

事業所の自己評価について、事業所のサービス向上及び事業の適正化の為に毎年事業所で実施しなくてはならない評価となっています。事業所の評価としては、「外部評価」という制度もありますが、小規模多機能型居宅介護では、自己評価が必須となっています。

今回、皆さんにお渡しした資料は、自己評価行い、事業所内でミーティングを行い作成したものととなります。皆さんには、この資料に目を通して頂き、「外部評価 地域関りシート①」を記載いただき、今月中（8月中）に事業所に返信をお願いいたします。

・身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会報告

この委員会も今年の介護保険改定に伴い、実施されていない場合、減算の対象となる委員会です。身体拘束や高齢者虐待について、より厳格化される事となりました

今月、第2回目の身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会を行いました。第1回目の委員会を4月に実施しました。4月の会議で全職員に「身体拘束」に対する認識や「できている」「できていない」などのアンケート調査を行いました。4月の調査で「できていない」事の中に「ちょっと待って下さい。」などのスピーチロックについて意識ができていない事がわかり、「スピーチロック防止月間」として約2か月間取り組み、その結果について委員会を行いました。現場職員からは、意識して、だいぶスピーチロックは減ったが、ゼロにはできなかった。との意見でした。なぜ、ゼロにできなかった理由を委員会で考えました。考えた結果、「ちょっと待って下さい。」は、日常的に自分も色々な時、色々な人に言われる事があり、その言葉を言われても「悪い気になったりしない」からという事が分かりました。職員も自分が言われて嫌な事は、利用者様にいう事が無いはずなので、自分が言われて嫌な思いをしないので、つい言うってしまうのでは？という結論がでました。絶えず意識をしないといけない。という事になりました。

また、今月の事業所会議の中で身体拘束廃止に向けた取り組みを検討して新たな課題に挑戦する予定です。

→参加者からの意見

身体拘束に「スピーチロック」というものがあるとは知らなかった。

「ちょっと待って下さい。」難しい問題ですね、自分も言われても特にそんなに悪い気分にもならないし、自分も使ってしまうと思う。

→スピーチロックにならない言い方（池野）

「今〇〇なので、〇〇分位、お待ち頂いてもよいですか？」と相手に判断を委ねる
いい方であれば、スピーチロックにはならない。

5. 次回の開催について

令和6年9月17日（火）13時30分～予定。

6. 閉会の挨拶（池野）

以上

回 覧

事務局長	副部長	管理者	職 員